

ISSN 1882-9511

THE AICHI-GAKUIN JOURNAL OF PHARMACEUTICAL SCIENCES

愛知学院大学薬学会誌

VOLUME 8
DECEMBER 2015

愛知学院大学薬学会

THE AICHI-GAKUIN SOCIETY OF
PHARMACEUTICAL SCIENCES
NAGOYA JAPAN

ISSN 1882-9511

愛知学院大学薬学会誌

第8巻 2015年12月

THE AICHI-GAKUIN JOURNAL OF PHARMACEUTICAL SCIENCES

VOLUME 8 DECEMBER 2015

愛知学院大学薬学会

THE AICHI-GAKUIN SOCIETY OF
PHARMACEUTICAL SCIENCES

NAGOYA JAPAN

巻 頭 言

未来予想図

薬学部長 井上 誠

2001年、2010年は宇宙に憧れていた私の記憶に残っている年であり、アーサー・C・クラークのSF小説であり後に映画化された「2001年宇宙の旅」と「2010年宇宙の旅」の年である。30年以上も前に見た映画であるが、映画音楽と共に強く記憶に残っている。2015年の現在、疾うにそれらの年を過ぎてしまっているが、宇宙ステーションが稼働し、人工知能の開発が進んでいる現実以外は、やはりSF小説の世界であった。

では少々未来を見てみると、2018年には大学進学者が18歳人口の減少とともに大幅に下がり出すことで大学の定員確保が難しくなることが問題視されている。そして2025年には、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者になり、日本が世界的に類をみない超少子高齢社会に突入する。日本経済の衰退や医療、福祉、介護等の社会保障制度の破綻が懸念されており、SF小説であって欲しいと思うほど深刻な現状に直面しようとしている。

一方、愛知学院大学薬学部は2005年に開設されてから10年が過ぎ、10年後には2025年を迎える。これまで薬学部は多くの卒業生を社会に送り出し、多くの研究成果を社会に発信し順調に発展してきた。しかし、2018年問題、2025年問題はひたひたと着実に近づいてきており、薬学部の未来を予想するのは容易ではない。現在の小学生が社会に出る頃にはその65%が現在は存在していない新しい職業に就き、今後20年程度で現在の仕事の半数がロボットによって取って代わられるという未来が予測されている。また、医療を取り巻く世界では、地域包括ケアシステム、在宅医療、チーム医療をキーワードにすでに改革が進んでいる。当然、薬剤師を含めた医療に携わる人々の職能は今後大きく変化し、新たな職能への適応や主体的な自己研鑽が求められるだろう。今後、薬学部が社会の変革の時代を生き延び、さらに発展するためには、これからの10年間に何を成すべきかが重要になってくる。ひとつには、時代の大きな変化に対応できる人材育成を、「高い専門性」「倫理観」「人間性」「使命感」「実践力」「科学的思考力」「問題発見・解決能力」「コミュニケーション能力」「自己研鑽力」をキーワードに推し進める必要があるだろう。また、本学薬学部ならではの教育と研究の充実と本学薬学部ならではの社会貢献の充実を図っていく必要があるだろう。薬学部のブランド力を上げ、選ばれる薬学部へ、さらに、愛される薬学部へと進化していくことが、教職員、在学生、卒業生が期待する薬学部の未来ではないだろうか。未体験で先が見通せない未来が近づいているが、薬学部教職員の団結と卒業生の皆様のご支援により、在校生が「本学で学べてよかった」、卒業生が「本学を卒業できてよかった」、そして、教職員が「本学で仕事ができてよかった」と思うことができる薬学部になっていくことを願っている。

今後も皆様のご理解とご協力、そして、さらなるご支援をよろしくお願い申し上げます。

目次

巻頭言

未来予想図

薬学部長 井上 誠

総説

臨床カルニチン-L体カルニチン製剤の発売経緯、そして薬剤性カルニチン欠乏症 …… 1
杉山 成司

薬物動態および毒性試験への応用を目指したヒトiPS細胞由来肝細胞の作製とその培養技術 …… 7
堺 陽子、岩尾 岳洋、國正 淳一、松永 民秀

学会報告

潰瘍性大腸炎ラットにおけるタクロリムスの経口吸収増加とその要因 …… 15
柳田 航平

医療生命薬学研究所

平成27年度 医療生命薬学研究所組織 …… 21

医療生命薬学助成（プロジェクト提案型研究） …… 22

「平成26年度 医療生命薬学助成研究概要」 …… 25

中枢神経障害発症における各種水銀化合物の複合影響の解明

（メタボロミクス法を用いたメチル水銀並びに水銀蒸気の複合曝露による脳内因子プロファイル解析） …… 27

李 辰竜

慢性疼痛モデル動物におけるmorphineの呼吸抑制作用と

その改善薬についての神経薬理学的研究 …… 28

木村 聡子

イオン液体を用いた新規電子顕微鏡解析手法に基づく

バイオフィーム感染症治療DDS製剤の設計 …… 29

高橋 知里

緑茶カテキンEGCG・薬物相互作用を修飾する、性差、投与経路、

および絶食の影響の解析 …… 31

川崎 達也

国際交流委員会活動報告

平成27年度韓国薬学研修 安池 修之 …… 33

F D委員会活動報告

平成26年度 薬学部F D研究会報告 …… 35

田中 基裕（文責）、安池 修之、脇屋 義文、武田 良文、井上 誠（委員長）

講座紹介・業績リスト …… 41

薬学部医療薬学専攻 六期生 卒業論文課題一覧 …… 89

評議員会便り …… 95

投稿規定 …… 103

薬学会会則 …… 105